
[成果情報名] 春夏出し栽培におけるオータムポエムの適応性と育苗温度

[要約] 「オータムポエム」は3月上旬に播種すると5月に、6月上旬～8月上旬に播種すると7月下旬～11月中旬に充実した抽だい茎と花蕾が収穫できて収量性が優れる。5月出し栽培では、3月上旬に播種し最低温度を20 で暖房育苗すると、花成が抑制されるため充実した抽だい茎と花蕾が収穫でき、高い収量が得られる。

[キーワード] オータムポエム、抽だい茎、花蕾、暖房育苗

[担当部署] 野菜栽培部・野菜栽培チーム

[連絡先] 092-922-4364

[対象作物] 野菜 [専門項目] 品種選定、栽培 [成果分類] 品種選定、技術改良

[背景・ねらい]

近年、消費の多様化に伴い花蕾等を食べる葉菜類の需要が拡大しており、秋から春に「早陽1号」(ツケナの仲間)が出荷されている。市場からは夏場を含めた周年供給が望まれているが、慣行の品種では夏季の高温による出蕾抑制と春季の早期抽だい、開花による花蕾の充実不良のため、5月から10月まで生産が困難である。一方、抽だい茎と花蕾を食べることが可能で高温期に抽だいしやすい中国野菜の近縁品種が近年、導入・開発されている。

そこで、春夏期に出荷できる野菜品目を開発するために高温期でも花芽分化しやすい適品種を選定し、春季に花成を抑制して充実した花蕾等が得られる育苗期の温度管理技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 「オータムポエム」は3月上旬に播種すると5月に、6月上旬～8月上旬に播種すると7月下旬～11月中旬に1本重20g前後の抽だい茎と花蕾が収穫でき、10a当たり収量は800kg以上と高い。また、「サイシン」は8月上旬播きで、「オータムポエム」に比べて抽だい長が長く、10a当たり収量は864kgと高い(図1、表1、一部データ略)。

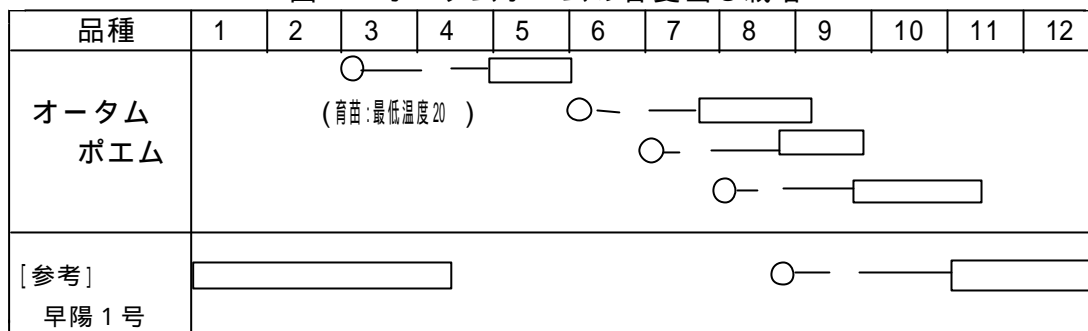
2. 5月出し栽培では、3月上旬に播種して育苗期の最低温度20 で管理することにより、出蕾、開花日が遅れ、1本重が重くなるため、10a当たり1000kg以上の収量が得られる(図1、表2、3、一部データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. 主枝の摘心は開花後に行い、収穫は抽だい長が15cm以上で花が咲く前か1花開花時まで実施する。収穫時には側枝基部の2葉を残す。
2. キスジノミハムシ等の害虫や軟腐病、白さび病等の病害の発生が多い時期であるため十分に注意し、防除を徹底する。
3. 5月出し栽培の育苗では、電熱線のほかに電熱ヒーター等を用いて温度確保に留意する。

[具体的データ]

図1 オータムポエムの春夏出し栽培



注) 1. ○ : 播種、— : 定植、— : 収穫。
 2. オータムポエムは抽だい茎と花蕾を可食。食味は苦味がない。

表1 播種時期別の収穫時期および収量 (平成14年)

品 種	6月1日播種		7月1日播種		8月1日播種	
	収穫期間 (月日)	収量 (kg/10a)	収穫期間 (月日)	収量 (kg/10a)	収穫期間 (月日)	収量 (kg/10a)
オータムポエム	7.22~9.4	1,390	8.21~9.27	806	9.27~11.13	1,027
サイシン	7.17~8.28	322	8.9~9.4	506	9.13~11.13	864
(参考)早陽1号	7.22~8.28	514	8.30~9.27	204	10.9~11.26	561

注) 1. 定植日: 6月1日播種は6月26日、7月1日播種は7月19日、8月1日播種は8月26日。
 2. 露地マルチ栽培を行い、マルチは地温の上昇を防ぐ白黒Wマルチを使用した。
 3. 収穫は抽だい長が約15cm以上のものを行い、収量を算出した。

表2 オータムポエムの育苗期最低温度と開花日及び開花時節数 (平成15年)

育苗期 最低温度	3月2日播種		3月14日播種	
	開花日	開花時節数	開花日	開花時節数
20	4月25日	10.0	5月6日	9.8
10	4月17日	8.7	5月2日	9.1
無加温	4月16日	8.4	5月1日	8.2

注) 育苗は200穴トレイを使用し、ハウス内で電熱温床を設置したトンネル内で管理。
 定植日: 3月2日播種は4月1日、3月14日播種は4月11日。

表3 オータムポエムの育苗期最低温度と品質、収量 (平成15年)

育苗期 最低温度	3月2日播種				3月14日播種			
	収穫期間	1本重 (g)	10a当たり 収量(kg)		収穫期間	1本重 (g)	10a当たり 収量(kg)	
20	5月6日~5月23日	18.9	1,281		5月16日~6月2日	18.9	1,209	
10	4月30日~5月19日	10.7	750		5月9日~5月26日	13.6	611	
無加温	4月28日~5月9日	8.4	356		5月9日~5月26日	11.4	506	

[その他]

研究課題名: 花菜類の作期拡大技術の確立
 予算区分: 国庫助成 (地域先端等新技术実用化)
 研究期間: 平成15年度 (平成13~15年)
 担当研究者: 森山友幸、林田達也、柴戸靖志、井上恵子